

Contents

2階・常設展示の「かつしかの歴史」エリアが生まれ変わりました!



11月からの
プラネタリウム上映について



博物館ジュニア教室

星の学校

冬休みの
テーマは
「影と太陽」
だよ



お知らせ

当博物館のキャラクターが
来年登場する予定だよ。お楽しみに!!

No.

1 2 8

2階・常設展示の「かつしかの歴史」エリアが生まれ変わりました!

葛飾が歩んできた歴史をより楽しく、わかり郷土博物館としては画期的な白くデジタル機器の活用やバリアフリー化により

やすく学べる展示を目指して一新しました。モダンな空間は、まるで美術館のよう。利便性も向上しました。ぜひご覧ください。



ここが新しい!

テーマ展示から、時代順にストーリー展開する展示に

葛飾が歩んできた歴史を、年表を軸に時代に沿って迎えるので、古代から近・現代までがわかりやすくなりました。

館内装飾

白を基調としたデザインで館内を明るくし、展示資料がより見やすくなりました。

バリアフリー化

動線をわかりやすく表示し、広々とした空間でゆったりご覧いただけます。

デジタル情報の活用

デジタル情報を活用したスクリーン展示をお楽しみください。

新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用や入館時の検温などにご協力いただくとともに、入館制限を行う場合があります。

詳しくは中面をご覧ください

11月からのプラネタリウム上映について

新型コロナウイルス(COVID-19)感染防止のため、ご予約はお電話で承ります。

引き続きプラネタリウム上映は完全予約制で行います。
※11月7日からは郷土展示室も合わせてご覧になれます。



アンコールアワー

「シンフォニー・オブ・ユニバース

～第3番 探査機が伝える太陽系 第1・2楽章～

圧倒的迫力のデジタルプラネタリウムによる映像と、クラシックの名曲たちが奏でる壮大なシンフォニー。音楽と共に、人類のフロンティア・太陽系の旅を体験します。

※新型コロナウイルス感染症防止対策の一環として、上映時間を40分に短縮した内容となります。

座席は間隔を置いた一部の座席に制限しています。

※番組は変更となる場合があります。

ご予約は、葛飾区郷土と天文の博物館へ

上映開始 11月11日

上映期間は未定です。決まり次第ウェブサイトに掲出します。

上映日時 平日(月曜日、第2・4火曜日を除く) … 午後4時

土曜日・日曜日・祝日 … 午後1時と、午後4時

上映時間 40分

定員 40人(電話申込み先着順)

※ご家族以外のご予約は、1グループ5人までとさせていただきます。

※完全入れ替え制です。

新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用や入館時の検温などにご協力いただくとともに、入館制限を行う場合があります。

受付時間 希望日の前日(前日が休館日の場合は前開館日)

午前9時から正午まで

※定員に達しない場合は、当日も予約を受け付けます。(当日正午まで)

電話番号 03-3838-1101(おかけ間違いにご注意ください)

! ご予約・ご来館にあたって

新型コロナウイルスの感染状況により、ご利用方法や内容を変更する場合があります。ご利用前には当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。▶▶



新しくなった2階・常設展示の「かつしかの歴史」エリアをのぞいてみよう!

実際の展示室は色分けしていませんが、ここではわかりやすくするために色分けしています。

かつしかルーム

葛飾区のなりたち(地名の由来、行政区画の変遷、地形)を詳しく知ることができます。葛飾区がたどった現在までのあゆみ(軌跡)を、大画面の迫力ある映像でご紹介します。「ジオ」は東京低地が生まれた奇跡の物語、「ヒト」は災害とともに生きた人々の奇跡の物語です。



大型映像で見られる2つの番組

東京低地が生まれた軌跡の物語



▶水とジオの物語～東京低地のキセキ～

災害とともに生きた人々の奇跡の物語

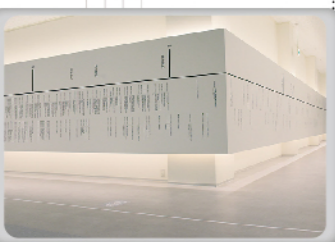


▶水とヒトの物語～災害と共生のキセキ～

かつしかルームと合わせて見たい!



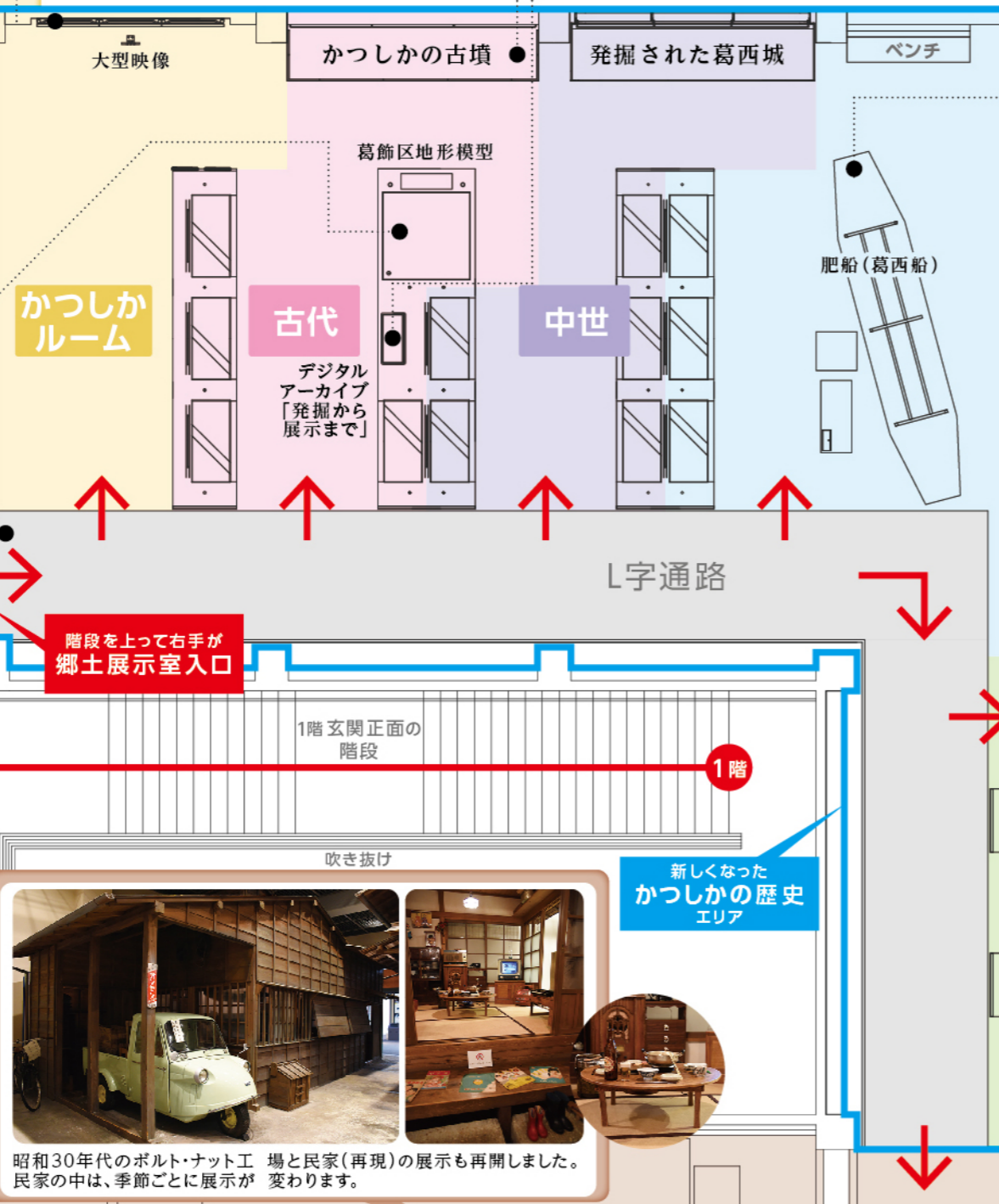
葛飾区地形模型
わずかな土地の起伏もわかりやすくするため、高低差(垂直比)を10倍で表現しています。



L字通路
年表に沿って広い通路があります。ご覧になりたい年代へスムーズに移動できます。

エレベーター

(新型コロナウイルスの感染防止のためエレベーターは使用を制限しています。)



昭和30年代のボルト・ナット工場と民家(再現)の展示も再開しました。民家の中は、季節ごとに展示が変わります。

古代

古墳時代以降、葛飾区域に人が住み始めました。ここでは、区内の遺跡で出土した遺物などを展示し、人々の暮らしを紹介します。



柴又の古墳から出土した埴輪。



たげた田下駄

はじきだいつきかめ土師器台付甕



デジタルアーカイブ「発掘から展示まで」
発掘から整理、展示に至る作業の過程を映像でご紹介します。

中世(鎌倉時代、室町時代、戦国時代)

中世の葛飾区域は鎌倉時代に葛西氏、室町時代は上杉氏が支配しました。水・陸交通の要衝であったため葛西城が築城されました。



せいかさだい青花器台

将棋の駒

瀬戸・美濃陶器 天目茶碗

葛西城の出土資料



肥船(葛西船)。実際の船はこの2倍の大きさでした。

近世

葛飾区域一帯は、江戸東郊の農村地帯として開発が行われました。また、江戸時代後期には、曳舟や花菖蒲が浮世絵の題材として取り上げられるなど、江戸近郊の景勝地として注目されるようになります。



デジタルアーカイブ「堀切菖蒲園の世界」
歴史資料や浮世絵の中の花菖蒲をご観覧ください。

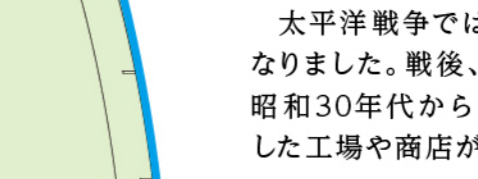
近・現代

葛飾区域では明治22年に7カ町村が成立し、明治30年に区内初の鉄道駅が亀有に誕生します。

代表産業であった農業はさらなる発展を遂げ、近代産業では小菅煉瓦工場を皮切りに、数多くの工場が稼働します。

大正12年の関東大震災で家を失った人々が葛飾区域に移り、人口が急増します。そして昭和7年復興と都市化のさなかに葛飾区は誕生します。

太平洋戦争では空襲で被害を受け、多くの方が犠牲になりました。戦後、復興とともに工業・宅地化が進みます。昭和30年代からの高度経済成長期に入ると独立・開業した工場や商店が増加し、人口増加にともなう社会基盤の整備が進み、各地で見られた農村風景は都市の街並みへと大きく変わっていきます。



葛飾区内の空襲や学童疎開の様子を伝える戦争についての資料が並びます。



デジタルアーカイブ「映像から見るかつしか」
水害、祭礼、商店街など、様々なテーマに沿った映像が見られます。

近世



葛飾の村変遷テーブル

近・現代

デジタルアーカイブ「映像からみるかつしか」

かつしかの暮らしエリア



新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により、開催を中止していた「天文ジュニア教室-星の学校」を開きます。従来通りみんなが博物館に集まって学習するスタイルの他、自宅などでも学習できるウェブサイトのコンテンツをご用意します。

博物館で参加する場合 申込必要

日時 令和2年
12月26日(土)・27日(日)
両日も午前10時～11時、
同じプログラムです。

対象 小学3～6年生
(保護者1名の同伴が必要)

費用 無料

※新型コロナウイルス感染防止対策をとって実施します。
※状況により中止する場合があります。

ウェブサイトを見る場合 申込不要

公開日 令和2年
12月27日以降

対象 どなたでも

※博物館で開催する内容とは多少異なります。



申込方法などの詳細は、「広報かつしか 11月25日号」または11月中旬以降「当館ウェブサイト」をご覧ください。

電子申請は「広報かつしか」に掲載後利用開始となります。

葛飾区郷土と天文の博物館ご利用案内

開館時間 午前9時～午後5時
(金・土曜日は午後9時まで開館。ただし金・土曜日が祝日の場合、午後5時に閉館。入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日、第2・4火曜日、12月28日～31日、1月1日・4日
(月曜祝日は開館。火曜祝日は開館し翌平日休館)

入館料 大人 100円 小・中学生 50円 幼児無料
(毎週土曜日は中学生以下無料。)

**プラネタリウム
観覧料** 大人 350円 小・中学生 100円
幼児(座席を使う場合) 50円
(毎週土曜日は中学生以下無料。)

**年間
パスポート** 大人(高校生以上) 2,000円 小・中学生 700円
購入から1年間、入館とプラネタリウムが見放題になる大変お得なパスポートです。購入時にご希望があれば、「博物館だより」(年3回発行)を1年間お送りします。

アクセス



電車 京成電鉄「お花茶屋」駅から徒歩8分
JR常磐線「亀有」駅から徒歩25分

バス ① レインボーかつしか(有71・有72系統)又は京成タウンバス(有70系統)で「白鳥わかば公園」バス停下車 徒歩3分
(有71 金町駅南口～亀有駅南口～ウェルビアかつしか)
(有72 亀有駅南口～ウェルビアかつしか)
(有70 金町駅南口～亀有駅南口～ウェルビアかつしか 又は タウンバス車庫)

② 京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車 徒歩5分

③ 京成タウンバス(有57系統)で「共栄学園」バス停下車 徒歩5分
(有57 亀有駅南口～葛飾区役所 又は タウンバス車庫)

博物館だより

発行

葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1

電話 03-3838-1101 FAX 03-5680-0849

http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/

